

成果の説明書

(氏名)井手 拓郎	(学部)地域政策学部
1 重要事項 (1) 研究活動 ◆ 日本学術振興会の科学研究費「基盤研究 C」(研究代表者)採択課題関連 ● 高崎経済大学地域政策学部観光政策学科編の『大学的群馬ガイド:こだわりの歩き方』(昭和堂, 2024 年 3 月)において、第 7 章「前橋のまちなかづくり」の執筆を担当した。 ● 群馬県内の 4 つの地域 DMO に調査を行った結果に基づき論文を執筆した。その論文は学術誌に投稿し、審査中である。 ● 日本観光ホスピタリティ教育学会第 23 回全国大会(2024 年 3 月 9～10 日、於 北星学園大学)において、「観光関連科目におけるリーダーシップ教育の実践」を発表した。 ◆ 2023 年 4 月より、高崎経済大学地域政策学会の監事を務めている。 ◆ 一般社団法人日本計画行政学会第 46 回全国大会セッションⅢ研究報告(移住・観光)の座長を務めた。 ◆ 国内学会から査読依頼があり、2 本の論文査読を行った。 (2) 教育活動 観光産業論・観光まちづくり論・観光地域調査演習という 3 つの科目を担当した。まず、観光産業論・観光まちづくり論については、これまでの履修学生の状況や授業アンケート結果を踏まえてそれぞれ改善を行った。具体的には、講義内容の理解度向上をめざし、情報の優先順位を見直して、構成を一部変更した。また、投影するスライド資料の見やすさの改善や、配布用レジュメの記入しやすさの改善を行った。観光を取り巻く社会状況の変化を踏まえながら、次年度も改善を図っていく。次に、観光地域調査演習は今年度が開講初年度で、履修生の様子を見ながら、あるいは履修生とも授業内容について意見交換を行ないながら、実施していった。今年度は概ね順調に実施できたが、履修生が増えた場合に同様に実施できるのかどうか、慎重に検討を重ねながら次年度の実施を進めていきたい。 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱという 4 つの演習、そして卒業論文の指導を担当した。基礎演習は、演習Ⅰでの専門的な研究活動に向け、研究姿勢、論文・レポートの書き方、地域調査にあたって必要なビジネスマナーなどを、学生同士の学び合い(輪読、ディスカッション等)によって習得を図った。演習Ⅰは、グループ研究及び産学協働事業に注力した。グループ研究は所属学生を 3 班に分けて、石川県金沢市での調査合宿を行い、その結果をグループごとに論文にまとめた。東日本旅客鉄道株式会社高崎支社・前橋駅との産学協働事業(駅からハイキング)については、基礎演習履修者も途中から参画する形とし、ゼミナール内において学年を超えた交流を図ることもできた。グループ研究や産学協働事業を通して、いかに工夫して問題解決を行っていくか、履修生は実践面からの学びを得ることもできた。演習Ⅱは、卒業論文執筆のための文献研究から、フィールド調査の実施・結果の分析、そして論文執筆までのプロセスを所属学生間で共有し、各個人の研究でありながら、ゼミナール全体で研究を進めていく雰囲気づくりを行った。それにより卒業論文執筆の後押しを行った。学生・教員の意見交換も適宜行い、論文指導を行った。その結果、10 本の卒業論文が完成へと至った。そのうちの 1 本は、高崎経済大学地域政策学会の学生懸賞論文において、最優秀賞を受賞した。	

(3) 社会活動 前述の通り、ゼミナール活動（基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ）の一環で、産学協働事業を行った。具体的には、東日本旅客鉄道株式会社高崎支社及び同・前橋駅と協働で、前橋駅起点の「駅からハイキング」を企画・実施した。大きなトラブルなく実施し、参加者をはじめ関係者から好評を得た。 また、教員個人としては、シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会の「絹ラボ事業」に関し、応募内容の審査及び成果報告会の講評を担当した。さらに、一般社団法人下仁田町観光協会の DMO 事業推進検討会議の座長、及びなんもく村観光協会の顧問を務めている。
2 その他の事項 特になし
3 次年度以降の計画・抱負 (1) 研究活動 科学研究費採択課題に関係する追加調査、及びこれまでの成果を取りまとめ、論文発表や報告書作成等を行っていく。 また、地域科学研究所の「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」に関係する追加調査、及び原稿執筆を進める。 (2) 教育活動 観光産業論・観光まちづくり論・観光地域調査演習においては、重要事項（2）で述べた事柄にアプローチし、履修者の学びがより充実するよう取り組んでいく。また、ゼミナール（演習Ⅱ、演習Ⅰ、基礎演習）においては、学内での学習の充実はもちろんのこと、学外団体との連携プロジェクトやグループでの社会調査に取り組んでいく。さらに、履修者各自の卒業論文の執筆を適切に支援していく。 (3) 社会活動 重要事項で報告した社会活動に引き続き取り組み、各地域の活性化に貢献していく。